

# 1 モエン標準施工法

## 1-5 設計施工上の主な禁止事項

モエンを、次のような部位や施工法で使用しないでください。  
不具合をまねく原因となります。



**11 水切への突き付け施工**  
小口からの吸水により、凍害や塗膜剥離、カビ発生などの原因になります。

➡モエンの下端と土台水切との間を10~15mmあけて施工してください。

**16 伝い水の原因となる施工**  
サッシの枠から落ちた雨水がモエンを伝い、汚れ、機能低下の原因になります。

➡モエン表面よりも30mm程度突き出たサッシを使用するか、雨跡防止水切、水切の両端を水返し処理したサッシ水切を使用してください。

**12 留付金具でのスタート**  
個々の留付金具をスターターとして使用して張り始めると、最下段の水平が確保しにくく、上段で目地すきを生じやすくなります。

➡最下段には必ず専用スターターを専用ビスで水平に取り付けて、張り始めてください。

**17 縦張り用モエンを横に張る**  
(縦横兼用モエンを除く)  
縦張り用モエンは実の部分に2mmの隙間ができます。横張りにするとここに水がたまり、汚れや吸水による凍害などの原因になります。

**13 透湿性の少ない防水紙の施工**  
壁体内の湿度が逃げにくくなり、結露や凍害の原因になります。

➡指定のモエン透湿防水シートなどを使用してください。

**18 横張り用モエン、縦張り用モエンの乱張り施工**  
ハットジョイナーや水切のジョイントとモエンの取り合い部でシーリングの施工不良をまねきやすく、雨漏りの原因になります。また、合いじゃくり目地から雨水が浸入するおそれがあります。(一部の工法を除く。)

**14 下地幅90mm未満での接合部の施工**  
釘またはビスを留め付ける時にモエン端部からの距離が不足し、割れなどの原因になります。

➡下地幅90mm以上の胴縁を使用してください。(段差が発生しないような調整を施す場合などは、45mm幅の2本組みも可です。)

**19 斜め張り施工**  
ハットジョイナーや水切のジョイントとモエンとの取り合い部で、シーリングの施工不良をまねきやすく、雨漏りの原因になります。また、合いじゃくり目地から雨水が浸入するおそれがあります。

**15 突き付け施工**  
突き付けでシーリング工事をすると、シーリングの目地追従性能が発揮できず、目地すきが生じ、雨漏りや凍害などの原因になります。また、中間水切へ突き付けると小口からの吸水により、凍害などの原因になります。(一部の工法を除く。)

**20 同質出隅の横使い**  
(指定付属部材を使わない場合)  
裏面にまわった雨水や結露水を排出できず、雨漏りや凍害の原因になります。

➡指定の同質オーバーハング用部材を必ず使用してください。